

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭58—91931

⑤ Int. Cl.<sup>3</sup>  
A 46 B 7/04

識別記号

庁内整理番号  
6671—3B

⑬ 公開 昭和58年(1983)6月22日

審査請求 有

(全 頁)

⑭ 歯ブラシ

門真市舟田町24—24

⑮ 実 願 昭56—190838

⑯ 出 願 人 田頭豊

⑰ 出 願 昭56(1981)12月17日

門真市舟田町24—24

⑱ 考 案 者 田頭豊

⑲ 代 理 人 弁理士 鎌田文二



## 明 細 書

### 1. 考案の名称

歯 ブラ シ

### 2. 実用新案登録請求の範囲

握り柄と、片面にブラシ毛を植設した台板との組み合わせから成り、前記握り柄の先端に台板取付部を設け、この台板取付部に前記の台板を着脱自在に設けた歯 ブラ シ。

### 3. 考案の詳細な説明

この考案は、歯 ブラ シの改良に関するものである。

合成樹脂で形成した握り柄先端の平坦な植毛面にブラシ毛を植設した通常の歯 ブラ シにおいては、ブラシ毛が腰折れし、摩耗しもしくは損傷した場合に全体を廃棄するようにしているため、非常に不経済である。

そこで、この考案は上記の欠点を解決し、きわめて経済的な歯 ブラ シを提供することを目的としている。

この考案は、握り柄の先端に形成した台板取付

(1)



部にブラシ毛を植設した台板を着脱自在に取付け、  
前記ブラシ毛の破損・損傷時に、台板のみを新しいものと交換するようにしたものである。

以下、この考案の実施例を添付図面に基づいて説明する。

図示のように、この考案に係る歯ブラシは、握り柄 1 と台板 10 との組み合わせから成っている。

握り柄 1 は、合成樹脂で形成し、もしくはステンレスや銀などの金属材料で形成することができ、その材質は任意である。この握り柄 1 の先端には台板取付部 2 が形成され、この台板取付部 2 に角形の凹所 3 が設けられている。

前記台板 10 は、上記凹所 3 に嵌合可能な角形に形成され、その片面にはブラシ毛 11 が植設されている。この台板 10 を凹所 3 に嵌め合わせると、上記凹所 3 の内周上部に形成した突条 4 が台板 10 の表面外周に設けた段部 12 に係合し、この係合によつて台板 10 が凹所 3 から抜け出るのを防止することができる。また台板 10 のブラシ毛 11 を持つて強く引き上げることにより、台板

(2)



10を取外することができる。

なお、台板支持部2の形状は任意であり、また台板支持部2に対して台板10を着脱自在に取付ける手段は凹所3の内周上部に設けた突条4を台板10の表面外周部に形成した段部12に係合させる方法に限定されるものではない。例えば台板支持部2にビス挿入孔5を形成し、このビス挿入孔5に挿入したビス6を台板10にねじ込むようにした方法、スプリングの弾力を利用して台板を挟圧保持する方法、ピンの抜き差しによる方法等を採用することができる。

この考案は、以上のように、握り柄の台板支持部にブラシ毛を有する台板を着脱自在に設けてブラシ毛が破損・損傷した場合に台板のみを新しいものと交換することができるようにしたので、ブラシ毛が破損・損傷した場合に全体を廃棄処理する従来の歯ブラシに比較してきわめて経済的であり、資源の有効利用に効果を挙げることができる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は、この考案に係る歯ブラシの一実施例

(3)



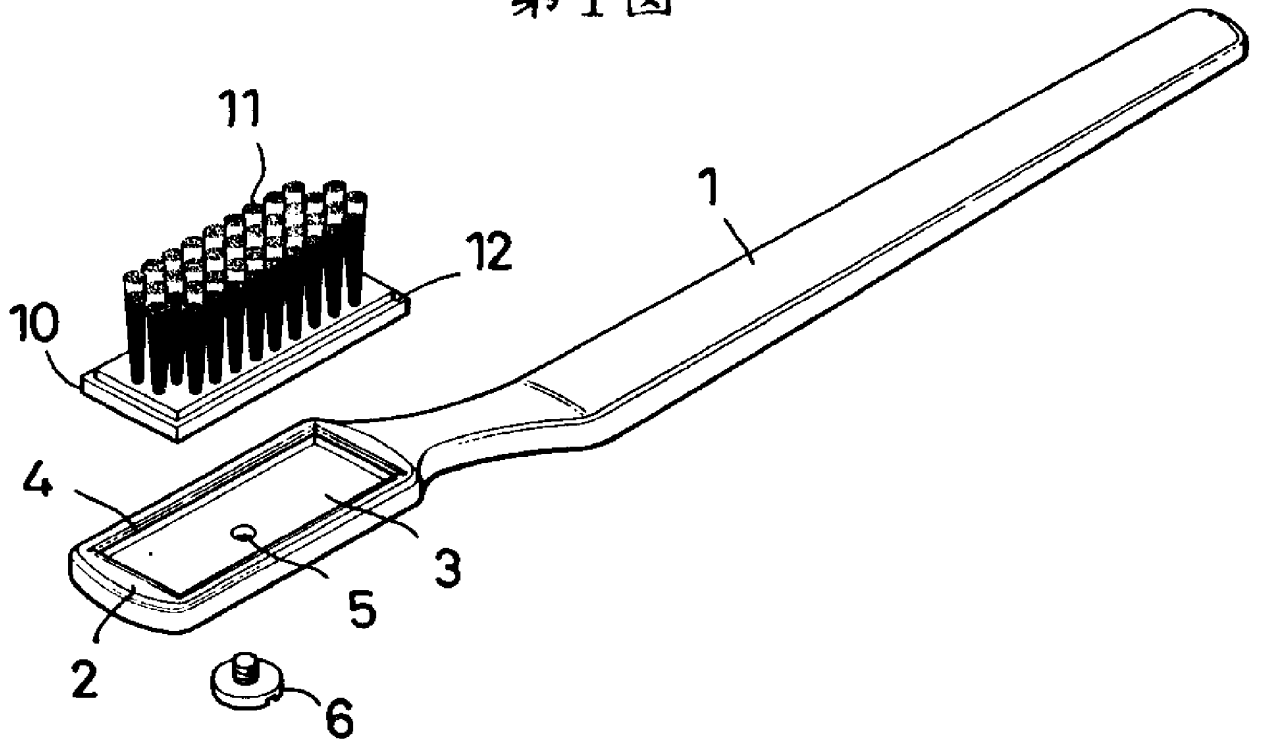
を示す分解斜視図、第 2 図は同上の組立て状態における断面図である。

1 … 握り柄、2 … 台板支持部、10 … 台板、  
11 … ブラシ毛

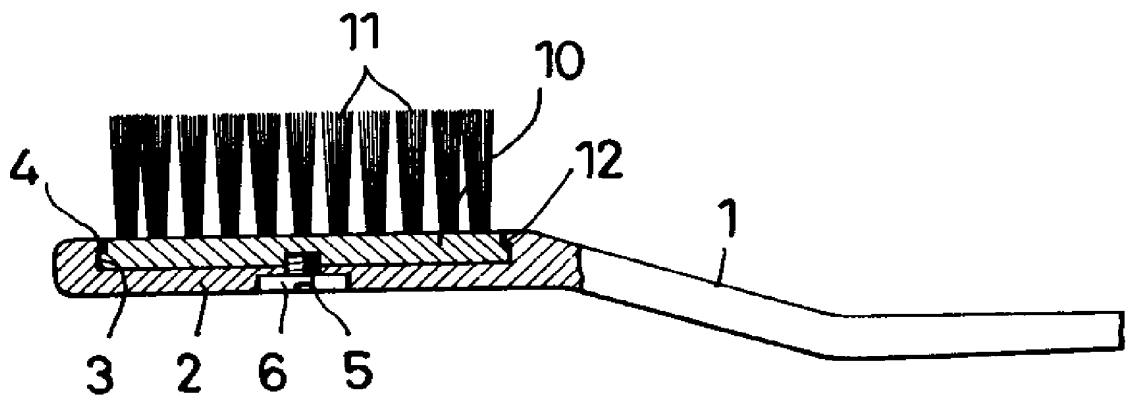
実用新案登録出願人 田 頭 豊

同 代理人 鎌 田 文 二

第 1 図



第 2 図



261

出願人代理人 鎌田 文二